

韓國旗ひるがえる

“ながら”竹島から帰港

竹島哨戒中の巡視船「ながら」は十八日午前五時任務を終えて境港に帰港した。第八管区海上保安本部では同日朝つぎのように「ながら」の哨戒状況と竹島の近況を発表した。

境海上保安部巡視船「ながら」(二七〇ジ)は十七日午前零時境港を出港、竹島のシヨウ戒任務にあたっていたが、十八日午前九時境に帰港した。同船には外務省アジア局川上事務官、辻政信代議士の両氏が竹島調査のため同乗した。

「ながら」からの報告によると、十七日午前十一時竹島から八呎の地点に達したが韓国船影を見ないので、一日午後零時半竹島に近接海上から東西の状況を詳細調査した。この結果、同巡視船が十三日竹島海域で韓国軍艦九〇五号と会談したさいに東西両島で確認した三度目の日本領土標識は撤去されて見当らず、東西山頂ほか三カ所に韓国側が建てたと思われる三本の旗ザオがあり、測量用のものか領土標柱か確認できなかつた。

また西島付近で三本の測量標識

らしいものが見られたことからして十三日以後十七日までの三日間に韓国学者調査団が来島、測量調査を行ったものではないかと思われる。